

令和 5 年度 第三セクター経営状況確認シート ①～④を各団体で記入 ⑤を市所管課で記入

団体名	公益財団法人所沢市文化振興事業団				出資金	200,000 千円	設立年月日	平成4年7月23日			
					出資比率	市 100 %	所管課	市民部 文化芸術振興課			
団体の設立目的	音楽、演劇をはじめとする優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する催事等の場を提供することにより、芸術文化と地域コミュニティの振興を図り、もって地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。										
① 団体の基本情報	組織の状況 (令和4年4月1日現在)	役員数 (うち常勤数)				職員数 (うち常勤数)				備考 「役員数」に評議員は含まない。評議員数7名(うち1名は副市長)	
		プロパー	市現職	市OB	その他	合計	プロパー	市現職	市OB		その他
		0	4	1	11	16	12	0	0	6	18
		(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(12)	(0)	(0)	(6)	(18)
市の関与 (財政的、人事的つながりなど)	「所沢市民文化センター ミューズ(以下「ミューズ」)」の指定管理者として、所沢市からの指定管理料を財源にミューズの管理運営を行うほか、芸術文化による地域の活性化を図るため、市内まちづくりセンター等を会場とした地域連携事業を展開している。実施する自主事業(クラシック・ポピュラー・演劇・寄席等)については、設立当初より利用料金制度を導入し、その収入(施設利用料金等)及びチケット料金収入等を財源としている。市の人事的関与は以下のとおり。市長=理事長、市現職=理事2名、監事1名、市OB=常務理事(兼事務局長)1名。										
事業の具体的な内容及び実施方法	平成5年のミューズ開館に伴い、施設の管理運営及び地域の芸術文化の振興を図る財団法人として発足(25年4月に公益財団法人へ移行)、18年度からは指定管理者としてミューズの管理運営(18年度より3年間、21年度より3年間、24年度より5年間、29年度より1年間、30年度より4年間、令和4年度より5年間)を行っている。 事業団が実施する主な事業内容は以下のとおり。 ① 優れた芸術文化の提供・発信(音楽・演劇・伝統芸能等の自主事業等の実施) ② 文化振興を通じての豊かな社会づくり(まちづくりセンター、教育委員会等の連携によるアウトリーチ事業等の実施) ③ 貸館業務(親しみやすく利用しやすい施設運営により利用促進を図り、市民の芸術文化活動の活性化に資する事業) ④ 安全・安心で利用しやすいミューズの管理運営(利用者サービスの充実、施設の良い管理運営)										

② 財務状況	平成30年度	平成31年度(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	経常収益	687,374,259	199,760,172	437,293,609	591,474,257
経常費用	620,785,749	227,715,082	478,253,474	573,412,416	650,541,194
経常増減額	66,588,510	△ 27,954,910	△ 40,959,865	18,061,841	33,168,910
総資産額	611,519,672	667,565,956	633,276,798	668,788,919	728,380,394
純資産額	497,751,735	468,219,247	427,259,381	444,014,056	477,182,966
市補助金	0	0	0	0	23,058,000
市委託料	443,024,000	188,316,000	304,480,000	306,039,000	327,716,000

③ 活動実績	項目名	単位	H30	H31(R1)	R2	R3	R4
	活動実績	ミューズ 利用者数	人	355,281	0	99,967	210,956
ミューズ 施設利用率		%	79.3	0.0	49.0	66.5	73.3
自主事業本数		本	79	34	54	57	65
自主事業入場者数		人	58,917	9,804	17,378	39,209	47,499

③ 活動実績	改善内容	<p>上述の4項目(ミューズ利用者数・施設利用率、自主事業本数・入場者数)全てについて、上昇傾向である。</p> <p>◎自主事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、コロナ禍で実施できなかった海外アーティストの公演を数年ぶりに開催し好評を得た。 ・連携協定先である埼玉県立芸術総合高等学校を始めとする市内小中高生を公演に招待するなど、他団体との連携や青少年が優れた芸術文化に触れる機会の提供にも取り組んだ。 ・公演当日の運営(プログラム配布や場内案内など)をサポートする「ミューズ サポートスタッフ」の活動を開始するための諸準備を行った。 <p>◎ミューズの運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸館業務においては、感染防止のための「施設利用ガイドライン」と「確認票」の見直しを行い、施設利用者と共に対策を講じながら、安全・安心な施設の貸出しを行った。 ・貸出し備品のうち利用頻度が多い「小型練習用オルガン」のインターネット予約を開始した。 ・一般のお客様に来場いただく公演形式の避難訓練を実施し、館内スタッフの避難誘導等災害時対応スキルの向上を行った。 ・昨今の燃料費高騰を受け、来館者の安全に配慮しながら、徹底した節電を行った。 ・来場者サービスの充実のため、コロナ禍によって休止していたレストランの営業を再開し、店内では所沢ゆかりのアーティストによる音楽イベントを開催するなど魅力と特色ある運営を行った。 ・施設運営においては、事業団及びPFI事業者、運営に携わる関連部署と定期的に「運営担当者会議」を実施し、運営上の課題の共有と解消に努め、利用者サービスの向上を図った。 <p>◎組織運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の創意工夫と事務改善意識の向上によって、利用者サービスの向上と法人運営の効率化などを目的とした「職員提案制度」の運用の見直しを行った。
--------	------	---

④ 事業概況	事業の経過及び成果	<p>◎令和4年度～8年度(5年間)の活動指針となる「Management Policy -こころをつなぐ、アートのちから-」に基づいた運営を行った。</p> <p>◎ミューズの運営については、引続き、市及びPFI事業者と連携するとともに、利用者サービスの向上のため運営に携わる関連部署と強力な連携体制による円滑な運営を行っている。</p> <p>◎自主事業においては、安全・安心な施設運営を行いながら、国内外のアーティストによる公演を積極的に実施し、幅広い世代に芸術文化の楽しさや魅力を届けている。</p>
	対処すべき課題	<p>◎燃料費や物価の高騰に対応するため、徹底した節電をはじめとする経費の節減と収入の増</p> <p>◎利用者サービス向上のための窓口キャッシュレス決済の導入</p> <p>◎ミューズが使いやすい施設であるためのPFI事業者及び市との情報共有と連携の更なる強化</p> <p>◎芸術文化を通して地域を活性化するための地域連携事業の拡充</p> <p>◎ファン層の更なる拡大を目的とした若い世代(10～30代)をターゲットとする事業の実施</p> <p>◎ミューズをご愛顧いただいている皆様へ、30年間の感謝の気持ちを届けるための魅力的なイベントの実施(令和5年度)</p>

⑤ 評価	
必要性の視点	文化振興事業団の設立目的でもある「優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する」ことは、市の総合計画にも位置付けられた重要な施策に沿うものであるため、実績・ノウハウを持つ文化振興事業団は引き続き必要である。
効率性の視点	昨今の物価高騰の影響を受けながらも、徹底した節電を行いつつ積極的な事業を行うことで、利用者数及び収益を伸ばしており、効率的な運営を行っていると判断できる。なお、今後の情勢が見通せないことから、引き続き効率的な運営が求められる。
自立性の視点	物価高騰の影響を強く受ける中で利用者へ安定的なサービス提供を行えるよう市から臨時的に支援金を交付したが、最終的には令和4年度も前年度に引き続き増益となるなど、安定的な経営が行えており、自立性・健全性は確保されている。